

「ベースとなる本」

社会・地歴・公民科 湖西 成仁

約20年前、宇和島勤務5年目のこと。ついに、17年間続けたホームルーム正担任を外れて図書課長となり、早速、目前に迫った創立110周年の記念誌編集を任された。書籍編集の仕事は、当時の私にとっては初めてのことで、どうしてよいやら困惑していたところ、かつて教育センターで御指導（三期研修）をいただいた山内譲先生にお会いできる機会があり、先生からの「校誌編集のベース（土台）は何と言っても『愛媛県教育史』（昭和46年3月出版）」との御指しで道が開けた。この本は愛媛県教育委員会が学制頒布百年事業の一つとして、5年の歳月をかけて出版した4巻（各巻約1,000頁）で、藩政時代からの歴大な資料を綿密に検討し体系化したものである。記念誌の編集には、宇和島東の「沿革史」や「校友会誌」等も欠かせなかったが、『愛媛県教育史』は「愛媛教育の実態を知る上で、第一の基礎資料」とされており、これら校内資料のベースとも確信できて、まさに目から鱗が落ちる思いだった。

ところで、このように書くと「ベースとなる本」とは、専門書で高価なイメージを持たれそうだが、私の趣味の世界（墨書、朗読、歌唱）では、比較的廉価で入手できる本もある。約10年前、北宇和高校勤務1年終了時でのこと。転勤を迎えられた教頭から置き土産として『書道三体字典』（野ばら社・高塚竹堂書）をいただいた。この本は定価が1,200円（税込み）でコンパクトなサイズ（B6変）だが、それ故に、左手で引きつつ右手で臨書できるという優れものだった。以来必携となり、それまで墨書のベースとしてきた高価な2種類の字典は書棚で埃をかぶることになった。朗読のベースとなったのは『はなしことばの練習帳』（晩成書房・菅井健著）である。これは基礎編と演技編の2冊（A5）からなるミニテキストで、両者はともに定価700円＋税のお手頃価格。さらにこの本の長所は、一つ一つの練習ステップが劇のかたちにとまとめられていること。そこで、4人程度のグループだと、楽しみながら、励まし合いながらの練習ができる。声優や俳優、アナウンサーを目指す人がいたら是非、友人を誘って試してほしい。残念ながら、もう一つの趣味、歌唱のベースは一冊もない。いや、あるはずがない。ドレミ（音符）が読めないのだから、どうしようもない。

朗読については、もう少し書かせてほしい。約40年前、教員になりたての頃のこと。朗読の録音で初めて挑戦した本が『坊っちゃん』（夏目漱石著）だった。山嵐、赤シャツ、野だいこ、といった登場人物の役柄に合わせて声色を変えることに躍起となり、愛用のカラオケマシンでカセットテープに吹き込んでいた時代が懐かしく思い出されるが、50歳代になって改めて聴いてみると、何ともお粗末。もう一度録り直していくことから、30年ぶりに、趣味としての朗読が復活した。昨今は、デジタル化によって録音も便利になった。ICレコーダーをマイクにしてマイクロSDカードに吹き込み、パソコンに収録してCDに焼くこともできる。以来、家庭での余暇はもっぱら朗読作品づくりとなり、愛媛新聞の連載小説や星新一のショートショート代表作（約100選）などを朗読、録音、編集していった。一つ残念なことは、これらを聴いて評価してくださる方が妻を除いていないことである。聞くところによると、本校の中村俊貴先生は少年時代、「怪盗ルパン全集」に夢中になられたとか。『ルパン対ホームズ』も含めルパン作品の代表作はCD化しているので、聴いて存分に批評していただけたらありがたい。

最後に、愛媛新聞の「四季録」（文化面連載のコラム）について。宇和島市出身の大野内愛さんが昨年10月から1年間、毎週土曜日の執筆を担当された。私が宇和島東で世界史Bを教えた生徒の一人で、音楽部の後輩でもあるが、現在は広島大学の教育学部教授で、音楽家としてオペラなどでも活躍されている。その彼女とは、南予文化会館での第1回市民ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』で共演して以来、約20年御無沙汰しているが、昔と変わらない誠実で温かい人柄に触れられることが楽しみで、毎回拝読し、読み終わるとすぐにリングファイル（A5）に綴じて保存していった。すると、9月末で終了したこのファイルが、音楽教育を通して培われた、教師のあるべき資質や姿勢について語られた貴重な一冊となった。これもまた、今後の私にとっては、生き方のベースの一本となるはずである。

校内読書標語 最優秀作品

あ
色褪せた ブックマークにしがみつく (6-4)

先日、読書標語を募集し、皆さんに出していただきました。図書委員による投票の結果、上記の作品が最優秀に選ばれました。また、優秀作品は、下記のとおりです。標語を考えていただいた皆さん、どうもありがとうございました。(各クラスの代表作品は、図書館に掲示していますので、ご覧ください。)また、選ばれた3人の皆さんには、ミニ賞状と図書委員お手製のしおりをプレゼントします。

- その一文を人生に (5-1)
- 広がる空想 私だけの世界 (6-2)

～11月購入予定本の紹介～(●は皆さんから購入希望があった本です。)

- 『ケーキ王子の名推理』(1～7) 七月隆文【著】
- 『私たちは売りたいくない』 チームK【著】
- 『傷モノの花嫁』 友麻碧【著】
- 『二人一組になってください』 木爾チレン【著】
- 『わたしの幸せな結婚 八』 顎木あくみ【著】
- 『口に関するアンケート』 背筋【著】
- 『赤ずきん、ピノキオを拾って死体と出会う。』 青柳碧人【著】
- 『苦しかったときの話をしようか』 森岡毅【著】
- 『本心』 平野啓一郎【著】

～図書委員オススメの本～

世界でいちばん素敵な夜空の教室』多摩六都科学館天文チーム【編】5年1組 鎌田好雄



この本は、タイトルの通り、たくさんの夜空の写真がありますが、それだけでなく天文学に関する様々な問いと答えが、分かりやすくまとめられています。

私がこの本を紹介した理由は、全校の皆さんに、もっと科学の本に興味を持ってほしいからです。科学の本は難しいイメージがあるかもしれませんが、この本は、カラー写真も多く、初心者にもわかりやすい本となっています。ここで質問!

Q「天の川の正体は？」 (答えは、本を見てください。)

この他にも、「図書委員オススメの本」を図書館の中央に展示しています。(11月末までの期間限定)
また、4月から10月までの「貸出ベスト19」も図書館のどこかに掲示していますので、探して見てください。